



ゆめ通信

考房「ゆめ」を拠点に活動している学生メンバー



ゆめを追いつづけて…

可能性は無限大

2~7

ゆめ通信30号記念



8

地域発 地域から松大生へ ……………



9

ヘルシー×コミュニティの活動

10~11

松大生がつくる情報発信ページ 学生ゆめ

12

Information

考房「ゆめ」は社会貢献活動を行う学生を支援しています。地域の方からの「お願い」を松大生とともに創造しています!



地域づくり考房「ゆめ」キャラクター 「こう坊」



学校法人松蔭学園 松本大学

“ゆめ”の由来…結芽「二つの芽を結ぶ場所」+夢+遊眼「遊び心の視点を持つ眼」

地域づくり考房「ゆめ」は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に活かしていくことを目指しています。



地域人としての自覚や人間性を養う学びの場 活動実践を通して自立した人づくりをめざす

～ 地域づくり考房『ゆめ』～

学生と地域をつなぐ場、それが、地域づくり考房『ゆめ』です。地域を“共育”の場として、学生・地域それぞれの立場でともに地域づくりを考える人材を育成しています。

地域づくり考房『ゆめ』では、右記の4つの活動を展開し、学生は自分の興味・関心に合わせてプロジェクトに参加したり、新たにプロジェクトを立ち上げたりします。そして地域の人々と連携・協働・共創しながら、大学で学んだ知識や技術を地域づくりの実践の場で活かしていきます。学生は、地域社会に関心を持ち、課題に気づき、積極的に活動することで、地域人としての自覚や、豊かな人間性を身につけていきます。各プロジェクトは学生の自主性により運営されますが、教員が適宜アドバイスや指導を行い、高い教育効果が得られるようにデザインされています。また、教職員が一丸となって学生の活動をサポートしています。

産学官民による連携協働事業

松本大学に地域から寄せられるさまざまな要望に応えることで、学生たちは地域社会の現状と課題に気づきます。そこから生まれた学習意欲が自らの成長を助け、地域を元気にするだけでなく、持続的な地域づくりにもつながります。学生・大学・地域の各々にメリットがある、本学が長年積み重ねてきた成果です。



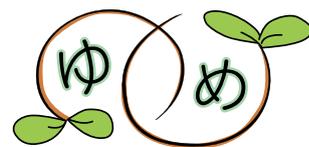
想いをカタチに変えるところ

これまで本学は、学生による地域活動をあらゆる方策を用いて支援してきました。その拠点となっているのが、“地域づくり考房『ゆめ』”です。

大学キャンパス内に設けられ、学生や地域の人々が自由に出入りして、交流・相談・会議を行う場所です。『ゆめ』のコーディネーターに支えられ、学生は地域活動への想いを具体的なカタチにすることができるのです。

『ゆめ』に託した想い

『ゆめ』とは、学生や地域のニーズを『芽』としてとらえ、それらを『結』んでいくという『結芽』と、想い描く『夢』、そして、様々な事業・活動の中で『遊』び心を忘れない『眼』を持つという意味の『遊眼』の3つの想いから生まれた地域づくり考房の愛称です。



地域づくり考房『ゆめ』

考房『ゆめ』の柱である4つの活動

1. 学生の関心、問題意識から生まれた企画実践



地域の中で「できること」「やりたいこと」を実践するために、学生同士でプロジェクトチームを作り、地域と連携した活動を進めていきます。

- 松本大学キッズスポーツスクール
- 松本大学子どもあそび隊
- お元気ライフぶろっぶず
- ヘルシーメニュー
- 信濃 X
- Sign
- ええじゃん栄村
- ゆめ通信編集委員
- ゆめ撮影隊
- 地域交流和太鼓プロジェクト「松風連」
- 松本大学ナーマル・プロジェクト
- Peace of mind
- 天ぷら廃油 Car エコ旅プロジェクト
- 異世代交流「社会討論会」
- ハートビート
- 松本大学子ども見守り隊
- 災害復興支援プロジェクト
- ものぐさパソコン教室
- こっふる 他

2. 地域との協働でプロジェクトを企画実践



学生は地域と連携し、地域のニーズをとともに考えてプロジェクトを一緒に立ち上げ、その実行に責任を持ってあたります。

考房『ゆめ』専任教員が、協働コーディネーターとして関わります。

- よっといで！“びすたり” in 西原
- 松本 BBS 会
- キッズトレイン
- しおじり IBC 番組「じもとーく」
- 松本市モビリティマネージメント事業
- 米粉 PROJECT
- 古い電車で新しい語らいの会
- 上高地線応援隊
- 新村音楽祭
- 松本かえるまつり
- お店で楽しい縁側づくり
- 33(ミミ)がわりプロジェクト
- 木曾漆器による賑わい創出プロジェクト
- 信州あづみの光城山プロジェクト
- 新鮮☆ゆめ市場
- ふれあい運動あそび教室
- ステップアップしませんか
～社会に出るその前に～
- 松本水輪花火大会 他

3. 地域づくり考房『ゆめ』の自主事業



学生と地域の方々とともに学び、ともに高めあう「とも学び講座」を開催。今、地域・社会で必要とされる「連携」「協働」「共創」を視点においています。

- 地域づくりコーディネーター養成講座
- 松本大学地域づくり
学生チャレンジ奨励制度
- 梓乃森祭「ゆめひろば」
- 若者と地域が集い語り合う
地域フォーラム
- 全国まちづくりカレッジ in 松本
- つながる高・大交流フェスタ
- 地域づくりサミット
- 21世紀を生き抜く新経営塾
- まちの縁側楽会
- 地域と連携した
人づくりと大学教育フォーラム
- まちづくりワークショップ
「松本の未来を描こう」
- 松本駅西口の可能性を考える
- 地域づくりコーディネーターサロン
- まちの縁側づくり実践塾 他

4. 地域で企画される活動への参加・支援



学生と一緒に活動をしようと考えている地域団体が企画・主催するプロジェクトに学生が参加します。地域の方々の考えを知り、行動していくことで社会貢献をしていきます。

- わおん♪自然探検隊
- コミュニティカフェ「セジュール」
- おかし町市場
- 上土よいまちクラブ
- 無料こどもじゅく
- 新村館報編集委員
- 松本神社神輿渡御
- フリマネット信州
- 塩尻プレーパーク
- チーム青い空
- 新村福祉ひろばイベント
- 新村地区初級パソコン教室
- 波田日本語教室
- ものづくり子ども博物館
- ICFA ビースクラブ
- 新村児童センター
- アースデイまつもと
- えんぱーくサイエンス教室
- まつもと街なか大道芸 他

地域との信頼関係があるからこそ

地域づくり考房『ゆめ』は、2005年に開設し10年を迎えました。併せて「ゆめ通信」も30号となり、これまでに考房『ゆめ』を拠点に、学生が地域と連携して取り組んだ多種多様な分野の地域活動を紹介してきました。

地域活動では、大学と行政・企業・自治会・市民活動団体等の組織や機関が、様々な地域課題に取り組んできました。地域社会を見る目も考え方や意識も異なる学生と地域の方々、年齢・業種・分野を越え一緒に取り組むことは、容易なことではありません。それを可能にしているのは、大学と地域との信頼関係があるからこそです。

信頼関係は、両者ともに深い心配りや互いに役割の責任を果たすことで生まれます。これまで考房『ゆめ』では、大学と地域の双方にメリットのある Win-Win の関係づくりをめざし、学生と地域との実践

活動を進めてきました。学生が地域に関わることで地域が元気になり、また、地域が学生の学びの場を創出しています。そのことで、地域に役立つ人材を育成しています。

地域との連携・協働には、ヒト・組織の「自立と自律」が必要です。自分で考え、行動し、自分の力で立ち、自分を律する心を持つことです。そして、各々の違いと特性を知り、繋がることで、楽しい活動となります。自由・楽しさ・喜びは、そこに携わる人の活力ややりがいを育み、まちの未来を創ります。

現在、学生時代に地域活動に関わった卒業生が、「キッズトレイン」企画で学生と一緒に地域活動に取り組んだり、「白馬高校の存続を考えよう」とする学生の活動を後押ししています。これも、これまでの人材育成の成果の一つといえます。

福島 明美 (松本大学地域づくり考房『ゆめ』専任講師)

「幸せな地域社会」づくりのできる「人」づくりを志に

松本大学 学長 住吉 廣行

今では本学の看板部署 調査見学に多数の来訪者が

松本大学開学が2002（平成14）年で、それから3年後の2005（平成17）年に、地域づくり考房『ゆめ』が開設されました。当時金沢工業大学では、自分たちの日頃の学びの成果を生かし、新しいアイデアや若者の感性を発揮できるような、何か形になるものに挑戦しようと、学生達がロボットづくりに熱心に取り組み、ロボ・コンの全国大会に出場しているのを知りました。この自ら学ぶ姿勢の育成をロボットづくりを通じて成功させた経験に触発され、松本大学流の自発的学びのシステムづくりを考えるようになっていました。

総合経営学部や短期大学部のような社会科学系の大学では、理工系の“ロボット”づくりに対応するものは何か？そこで到達したのが“地域”づくりだったのです。地域という具体的なフィールドを相手に、多くの方々の意思や望みを紡いで、そして自らの夢を形に変えていきます。仲間を集め、地域の方々と話し合い、何が求められているのか、どうすれば実現できるのか、失敗すればどう改善するのか、内容は“ロボット”制作と同様に豊富です。机に向かっているだけでは決して獲得できない、課題発見・課題解決型の貴重な学びの場になります。

地域にある「芽を結」んで、そして「遊びの眼」を大きく開いて、「夢」に向かって、松本大学に集う多くの若者に、大きく羽ばたいて欲しいと願い考房『ゆめ』が開設されたのです。今では本学の看板部署として、調査見学に多数の来訪者が訪れるほどに発展しています。



本学ならではの学修成果を开花させ、 地域の人財として羽ばたいて！

『ゆめ』は、学生と地域とを結ぶ窓口として、これまで同様「つなぐ役割」を重視し地域活性化の一翼を担います。学生の地域課題への取組は、学ぶ意欲を高め、対人関係構築能力を含む社会人基礎力の養成にも大いに役立ちます。また、学生が「自主性を発揮する地域活動」の教育的意義を再確認し、地域の将来の担い手を数多く育成していきます。

学生の皆さんには、卒業後、学生時代の本学ならではの特別な学修成果を开花させ、地域に役立つ人財となることを期待します。

ゆめ通信30号 これからの『ゆめ』に期待すること

ひとりひとりが自分らしく 輝ける場所であり続ける

私が、運営委員として最初に関わったとき、ゆめ通信は第4号でした。そこには、今でも続いている活動や名称を変えて続いている活動が綴られ、学生が地域に残した足跡が現在にもつながっていることを思い出させてくれます。学生は卒業しても、その思いは先輩から後輩へ引き継がれ活動としてつながっています。残念ながら終結している活動もありますが、「そのときその瞬間」学生が輝いている姿は『ゆめ通信』に刻まれており、いつか『ゆめ通信』が媒介となって新たな活動に発展することを期待しています。また、学生だけではなく地域の情報も綴られており、松本の地域力を感じることが出来ます。改めて、この地域力あつての『ゆめ』であり学生の活躍がここまで続いていることを感じずにはいられません。

これからも、『ゆめ』は学生ひとりひとりが自分らしく輝ける場所であり続けてほしいと願います。また、学生も「そのときその瞬間」精一杯活動してほしいと期待しています。

廣瀬 豊（松本大学地域づくり考房『ゆめ』運営委員長）

『ゆめ』開設時の初代学長の思い

地域にとっての “生活必需品大学”づくりの拠点

- 「幸せな地域社会づくりへの貢献」を“志”として、地域との協働を緊密にしながら「幸せづくりの人づくり」に邁進している松本大学です…中略…これが評判倒れにならないように、さらなる実践努力を進め、松本大学が地域にとってなくてはならない“生活必需品”のような大学になりたいというのが、私たちの“夢”でもあります。
- 地域づくり考房『ゆめ』は、“地域の生活必需品大学”づくりを“夢”とする松本大学のさしづめ“地域との窓口”と言えるでしょう。
- みんなが助け合って幸せな気持ちで暮らせる地域社会をつくることは、一つの夢への挑戦です。このような夢の実現へのチャレンジを手助けし、大学と地域社会の仲介役となっているのが考房『ゆめ』です。
- 中野 和朗（元松本大学学長・松本大学地域づくり考房『ゆめ』初代センター長）
- （ゆめ通信 NO.3・4・6 より抜粋）

官

人と人、地域と地域を結び、「みらい」を拓く『ゆめ』

地域づくり考房『ゆめ』は、学生と大学が地域との連携のもと、それぞれの役割分担により、様々な課題解決に向けたまちづくりの実践活動に対し支援する場で、本市においても、合併前の町村時代から現在に至るまで、大変お世話になってまいりました。

平成23年度には、NPO法人楽々安曇野が市内東部の里山の保全活動や歴史・文化の伝承を目的として、現地調査や文献の研究により冊子の作成を行いました。この事業において、松本大学学生の若く斬新な目線から見た里山について、感じたままをまとめていただきたく、市が仲介役として、『ゆめ』に相談にあがり、大学、NPO及び市による協働事業がスタートしました。市は、学生が主体的に活動できる環境づくりを最も重要視しました。学生は、NPO法人のメンバーの中に次第に溶け込み、事業を進めていく中で、

学生の成長する姿を見ることができました。協働事業の素晴らしさを痛感し、これまで多くの協働事業にご支援、ご指導をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

考房『ゆめ』のコンセプトである人と地域と大学が結ばれることは、多様化する地域課題の解決のため、さらなる重要な役割を担われることと思います。一層のご発展と、さらなるご指導をいただきますようお願い申し上げます。

宮澤 万茂留 (安曇野市市民生活部地域づくり課)



産

『ゆめ』の学生視点から生まれる上高地線の発展

弊社と松本大学地域づくり考房『ゆめ』とのかかわりは、平成18年度に開催された“まちの縁側づくり実践塾”という講座の中において、「上高地線新村駅に停まっている古い電車を地域の縁側にしよう！」というワークショップ



で、新村車庫を訪れていただくことが始まりとなります。

その後、「古い電車で新しい話の会」

が発足し、平成22年には引き継いだ学生の想いから「上高地線応援隊」と名称を変え、新村駅前の花壇整備やふるさと鉄道まつりへの出展協力、新開発グッズの販売による寄付等、大変ご尽力いただきました。

今年度は、9月7日に、乳幼児家族を対象とした“キッズトレイン”を学生さんと子育て中のお母さん達と一緒に企画して走らせています。学生さんの行動力・発想力は上高地線の存続や活性化に大きく寄与していただけるものと考えております。

今後につきましては、新しい視点で連携を強化し、相互に発展していけるような関係を保っていただけましたら大変ありがたく存じます。

隠居 哲矢 (アルピコ交通株式会社)

民

地域を見つめる若い目と将来必ず伸びる若い芽

私の住む徒士町は、高齢化が進み7年前に大型店が撤退し買い物困難な状況となり、有志がおかち町市場を開催しています。そこに松本大学学生が時々参加しています。

仲間と共に野菜市を始めたが運営が上手くいかず、ヒントを捜しに昨年11月から何回か訪れた学生からの手紙です。「地域の人々が沢山おかち町市場に来る意味が分かりました。また“活動が楽しいし好きだから市場の運営は大変じゃない”といつも笑顔でいる三村さんに感動しました」との内容でした。その後、学生と話をするなかで、おかち町市場の出店者や運営スタッフが協力していく事を約束しました。しかし、4月になって「活動をやめる事になりました」との報告を受けとても残念でなりません。最初は蕾だけけど、活動を続けていくと、必ず近い将来花開くと信じています。

十数年前、まちづくりで悩んでいる私が、福島先生と出会い、ご自分の実践から具体的なお話しをしていただき、強く強く背中を押して下さったように、私もまた若い人達のお役に立てればと思っております。



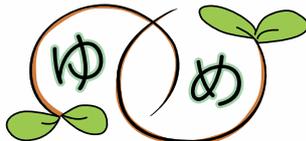
三村 伊津子 (松本市徒士町町会)

祝 考房『ゆめ』の軌跡

創刊からのあゆみ

「ゆめ」に託した想い

みんなの想い(夢)を多くの学生が共有してその考えを結びあい繋ぎ分かちあえる場所。そんな想いを込めて「ゆめ」と名付けました。



人は一人では、大小どんな願いがあっても行動範囲も視野も限られますよね。考房『ゆめ』は、それを共有できるメンバーを見つけ、地域のため、人のためにアクションを起こせる、また、そのきっかけの場所であって欲しいのです。

自分自身、学生時代に『ゆめ』の活動を通して、人生が大きく変わりましたし、卒業後も『ゆめ』で培った経験は今なお生きています！

余談ですが、就活中に中越地震の活動を取り上げたところ、最終的に10社中9社に内定を頂きました。

考房『ゆめ』名づけ親
石田 健 (2006年度 総合経営学部卒業)

キャラクター「こう坊」に託した想い

芽生えた想いや夢をカタチにできるようにと、「悪い夢を食べて良い夢を」をコンセプトに“バク”をイメージしたキャラクター「こう坊」を描きました。良く見える眼を持ち、芽をイメージした耳、夢をイメージした服をまとっています。



学生でいる間に様々なことに挑戦し、失敗もたくさん経験して下さい。きっと充実した大学生活になり、得た経験や知識は社会にでてもからも生きてきます。現在私は学生と一緒に「キッズトレイン」運行企画を進めています。

“やってみたい”という気持ちをサポートしてくれる地域づくり考房『ゆめ』を大いに活用しましょう！

考房『ゆめ』のキャラクター「こう坊」生みの親
隠居 綾 (2008年度 総合経営学部卒業)

地域で学んだことは、私の財産です！

私は消極的な性格で、その性格を直したいと思い地域活動にチャレンジしました。最初は緊張しましたが、短大2年の頃には活動のリーダーを務めるようになり、変わった自分が嬉しかったです。



現在、私は営業事務の仕事で先輩方と一緒にしています。職場ではいろいろな世代のお客様と関わりますが、学生時代に地域の方と関わったおかげで様々な考え方が出来るようになったこともあり、隠すことなく話せます。

地域活動は時には大変で「もういやだー」ということも…。でも、仲間と励ましあって乗り越えた経験は全て自分の財産になります。皆さんも地域活動してみるといいですよ。

大輪 啓子 (2011年度 松商短期大学卒業)

コーディネーター養成講座で得たもの

大学4年生から大学院1年生にかけて、地域づくりコーディネーター養成講座に参加しました。社会人に囲まれてグループワークなどを行う経験が、とても勉強になりました。社会人の方々は、皆、それぞれはっきりとした目的を持っており、そのような人々と話すことで、自分のやりたいことも明確になっていきました。また、社会人の方は、発想も学生とは違い、その部分も勉強になりました。



企画を立てる場合には、データがあれば形にはなるが、そこに住民の声や地域の具体的な情報がないと、本当に役に立つものではないのだということも学ぶことができました。

講座に参加して、世代を超えたコミュニケーションができるようになりました。

小野 萌 (2013年度 大学院健康科学研究科卒業)





「ゆめ通信」発行の体験を生かして

2009年に3人の学生が初めてゆめ通信編集委員となりました。硬すぎず手に取りやすい「ゆめ通信」を目指して、取材からレイアウトまでを行いました。初めは取材方法もわからず大変でした。しかし、慣れてくると取材を通して編集委員以外の自分の活動に生かせる点を学ぶことができることに気づき、楽しみながら有意義な時間を過ごせるようになりました。

学生の皆さんは、プロジェクトの活動やゼミでの活動などを切り離して考えがちですが、ひょんなことから他の活動に生かせることを学ぶことが多いので、広い視野を持って活動を楽しんでください。

学生初のゆめ通信編集委員
大石 春菜
(2009年度 松商短期大学部卒業)



ゆめ通信
編集委員

先へ続いていく情報誌に

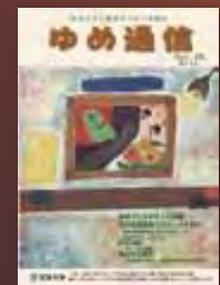
ゆめ通信編集委員は、現在15名で活動しています。ゆめ通信の「学生ゆめ」のページを主に担当し、内容構成・取材・編集をしています。記念に残る今号の30号では、表紙も担当しました。

また、3年前からは学生向けの情報誌「Volere!!」を年に1回発行しています。メンバーが年々増え、活動の幅も広がってきています。メンバー全員で、見やす

く手に取ってもらえる、情報満載の冊子作りをしていきたいです。

今後も「ゆめ通信」が、40号、50号と続けられるように、先生や職員、メンバーと一緒に頑張っていきたいです！

現ゆめ通信編集委員代表
清水 彩花 (総合経営学部4年)



創設の後押しに感謝しています

子どもとサッカーが好きでこの活動をスタートしました。当時は、地域に未就学児を対象としたサッカーを指導する団体はほとんどありませんでした。神経系が一番発達する時期に、適した運動をサッカーを通して行って欲しいという保護者の意見や要望を叶えたいという気持ちもありました。

設立当初は学生4人。やることはいっぱいありましたが、子どもの笑顔を見ることができました。また、教職員の方々が、学生に向き合って対応して下さったことに感謝しております。たくさんの経験が私たちの力になっていることを実感しています。

キッズサッカースクール創設者
林 孝行
(2009年度 人間健康学部卒業)



松本大学キッズ
スポーツスクール

運動の楽しさを教えたい！

月に2回土曜日に、松本大学で3～6歳の子ども達を対象としたスポーツ教室を行っています。子どもの発育・発達に合わせた様々なスポーツを通して、体を動かす楽しさを知ってもらうことを目的に、毎回テーマに沿ったメニューを考え、提供しています。参加者が増え、リピーターの方も増えてきました。さらに内容を充実させ、子ども達だけでなく保護者の方々にも満足していただけるメニューを提供してまいります。

また、長期休みを利用して鎌田児童センターの小学生を対象に、年齢に応じた運動あそびも行っています。定期的な活動以外に地域活動にも積極的に取り組んでいきます。

現松本大学キッズスポーツスクール代表
廣岡 帆晴 (人間健康学部3年)





考房『ゆめ』には、地域の皆さんから「学生と一緒に活動したい」「学生の新鮮な感覚で手伝ってほしい」等の依頼が多数届きます。学生は各々の興味・関心・特技を活かしてこれらの地域活動に参画しています。

新企画挑戦中!

すすき川花火大会

今年度より、新風を吹き込むために松本大学に相談したところ、16名の学生の方に企画・運営のご協力をいただきました。すでにポスター・松本山雅うちわを新デザインに見直ししてもらいました。

現在は新企画として、花火大会オープニングの演出やFMまつもとを通じた告知活動や駅前ロータリーで開催される「コラボ企画」等に取り組んでいただいています。詳しい活動内容は

すすき川花火大会ホームページ <http://susukigawa-hanabi.com/>で公開中です。

学生さんと一緒に花火大会を盛り上げて行きたいと思います。みなさんもぜひ花火を見に来てくださいね!

本蔵 真人 (すすき川花火大会実行委員会 事務局)

山雅とのコラボ企画に夢中

すすき川花火大会を松本の花火大会として根付くようにとの思いで、松本山雅FCとの「夏のうち企画」や駅前ロータリーで開催される「コラボ企画」を、事務局の富士電機の方と一緒に運営しています。たくさんのアイデアをぶつけられるのがとても楽しいです。企業の方はたくさんの視点から物事を見てるので日々勉強になります。

山雅コラボ担当 今村 嵩弘
(観光ホスピタリティ学科3年)

『伝える』ということの大切さ

私はポスター、チラシ等の制作活動をする中で、自分の意見を伝える大切さを学びました。広報は自分がイメージした物を伝えて初めて形になるので、いかにきちんと伝えるかが問われます。限られた時間の中で必要なことを伝えていくのは難しいですが、自分に足りない積極性の大切さをあらためて学ばせてもらいました。

広報担当 堀江 穂乃花
(総合経営学科1年)

企業人の企画力に学ぶ日々

話し合いの内容を一つひとつ濃くし、花火デザインやオープニング演出内容を企画しました。事務局の富士電機の方との活動では社会人の企画力、チームワークなどを間近で見ることができ、とても勉強になりました。まだ企画運営の活動はこれからという段階ですが、1人でも多くの方に楽しんでほしいという想いで活動しています。

企画運営担当 平畑 有菜
(松商短期大学部1年)



学生デザインによる
うちわ

裏面

表面



学生が事務局と協働で
制作したポスター



すすき川花火大会
プロジェクトのメンバー

伝統ある神事の記録・保存データ制作

松本市新村にある岩崎神社の例大祭が4月28日、29日に行われました。

「今年のお祭り後改修工事が始まり、木の幟柱立てが今年で最後となる。これを契機に歴史ある神社の祭事に光をあて、全国的にも珍しい「川狩りの神事」を史実通りに映像化して記録に残し、後世の記録として次世代への子ども達に伝えたい。また、映像を発信することで、岩崎神社の歴史を多くの方々に知ってもらい新村地区の大きな活力にしたい」との依頼があり「信濃X」と「ゆめ撮影隊」の学生有志が取り組みました。

岩崎神社は、農耕の水や生活水を司る二神を祭る社で、暴れ川を鎮める為に「川狩りの神事」が1100年前から行われている歴史ある神事です。

学生は、現場調査等事前に行き、当日は早朝の作業風景から撮影し、歴史に基づき編集を行い保存データを作成しています。



川狩りの神事

記録・編集を担当して

数回にわたる役員との打合せや総代会での意見交換や神社の歴史を詳しく教えていただく中で、多くの学びと発見がありました。

佐野 幹仁 (総合経営学科2年)



松大生がつくる情報発信のページ

学生ゆめ

ゆめ通信30号！ということで、今回の学生ゆめのページはどーんと2ページでお届けします☆各プロジェクトの新入生の声や、今年度に入ってからゆめ通信編集委員の活動をお伝えします！



学生プロジェクト新メンバーからひとこと★

松本大学キッズスポーツスクール



私は子どもが好きで関わってみたいと思い参加しました。また、キッズスポーツスクールの活動にも興味を持ちました。今後は、もっと子ども達と関わっていくことで体づくりに協力し、私自身も人との関わりを身につけたいです。

柳澤 杏 (スポーツ健康学科1年)

松本大学こどもあそび隊



私は元気な子ども達とふれあいたいと思ってこどもあそび隊に参加しました。毎回何をするかを決めたりと難しいこともありますが、優しい先輩と一緒に、とても楽しく活動しています。子ども達のかかわりは、なかなか慣れずに戸惑うことも多いので、活動の中で子ども達とたくさんふれあいたいと思います。

中島 ひかる (経営情報学科1年)

お元気ライフがらっぷす

大学で何かしたいことや目標がなく、何か行動を起こしたいと思っていた時に考房『ゆめ』の紹介があり興味を持ち参加しました。がらっぷすは高齢者の方が対象なので、少しでも高齢者の方達の健康や日々の生活が楽しくなるようなことを提供できるように考えていきたいです。



饗場 七子 (スポーツ健康学科1年)

松本 BBS 会

私がBBSに参加したのは、いろいろな人と接して、その人達の気持ちを理解したいと思ったからです。

すべての人の気持ちを理解することはとても難しい事ですが、活動を通じて、自分とは違う考え方や感じ方を知り、視野を広げていきたいと思っています。



堀江 穂乃花 (総合経営学科1年)

Sign



入学前から考房『ゆめ』に興味があり、ゆめカフェでSignの説明を聞きました。パリアフリーに関心があり、Signに入ってみようと思いました。手話を勉強してみて、手の動きだけでなく表情や口の動きも重要だと感じました。まだ、手話でコミュニケーションを図ることが出来ないので、もっと勉強していきたいです。

白倉 沙貴 (観光ホスピタリティ学科1年)

ヘルシーメニュー



「料理の知識を身につけ、スキルを高めたい」「地域の方々と交流がしたい」という思いでヘルシーメニューに参加しました。料理教室の料理の試作や農作業の手伝いなど様々な活動をしてみて、今後の活動に期待が膨らんでいます。地域の方々との交流を積極的に行い、自身の成長につなげていきたいらと思います。

梶原 千楓 (健康栄養学科1年)

信濃 X

私は、視聴者とテレビ局を繋ぐ形で地域に貢献したいと思い、信濃Xに入りました。信濃Xでの活動を通して、企画・運営する過程を学び、企画力・説明力・コミュニケーション力・実践力などを養いたいです。今は、撮影機材の使い方や、撮影した映像編集のやり方などを学んでいます。



牛丸 みすき (観光ホスピタリティ学科1年)

ええじゃん栄村

私は、ええじゃん栄村の活動に参加して、まず商品開発の大変さを知りました。先輩方の考えた栄村の特産品を使った商品は、どれも美味しそうで様々な工夫が施されていました。私はそれを見てすごいと思いました。私も先輩方のように素晴らしい商品を作れるよう頑張っていきたいです。



新井 知奈美 (総合経営学科1年)

ゆめ撮影隊



私が撮影隊の活動に参加した理由は、学校外での活動と、写真を撮る事に興味を持ったからです。カメラに特別詳しいわけでも無く、興味があるという理由だけで入ったため、技術的な面で不安はあります。ですが、活動を通して写真の技術だけでなく、人間的にも成長出来るようになりたいと思っています。

島田 竜輔 (総合経営学科2年)

ゆめ通信編集委員



親しみやすい情報誌「Volere!!」と出会い、参加を決意しました。編集という活動を通して、正確に伝えること、連携の大切さなど学ぶことがたくさんあります。それは自信にもつながり、活動を始めてから充実感が高まりました。学科や学年を超えた仲間と共に、1人でも多くの人に手にとってもらえる冊子を作っていく事が今の私の目標です。

川村 美咲 (経営情報学科1年)

生協くじ!!!

5/20～6/2まで開催された、むっくと編集委員の合同企画「生協くじで生協券を当てろ!!」。大学生協で買い物をしたレシートを集めて生協券やお菓子などが当たるくじ☆「ハズレなし」でみんなはかなり盛り上がっていました♪



なぜ始まったか?

編集委員がつくる情報誌「Volere!!」のアンケートで、学生から「生協のお得なクーポンが欲しい!」との声が上ががり、今回のくじをむっくさんと企画しました。



- 1等 生協券¥5,000×3本
- 2等 生協券¥3,000×7本
- 3等 生協券¥1,000×10本
- 4等 生協券¥500×30本
- 5等 おかし詰め合わせ×50個
- 6等 駄菓子好きなもの1個

賞品♡



友達と協力してレシート集め!

むっくさんとの初合同企画ということで、当日まで会議や準備を重ねてきました。開催期間中は想像していたよりもかなり盛り上がりました!

くじを引きに来た学生は友達と協力して何十枚もレシートを集めていたり、学生の笑顔と活気であふれた10日間でした♡

ゆめ通信編集委員 宮淵 翔子(観光ホスピタリティ学科4年)

あなたは大丈夫?

夏の紫外線対策

夏は、紫外線の強い季節です。皆さん対策は十分ですか?

地球に到達する紫外線には、日焼けや皮膚がんの原因になるUV-Bと、深く皮膚の中に浸透し肌の老化の原因になるUV-Aの2種類があります。

●部屋の中でも要注意!?

UV-Aは、UV-Bより波長が長いので、曇りや窓ガラスも通過しやすい性質を持っています。そのため、室内でも、長時間日光の当たる部屋にいる場合は注意が必要です。

●日焼け止めは上手に使おう

効果の高い日焼け止めはそれだけ刺激も強いので、肌の弱い人は気をつけましょう。①肌にムラなく塗る②こまめに塗りなおす③使用後はしっかり落とす、この3つがポイントです。

紫外線をしっかりガードして、楽しい夏を過ごしましょう!



おばあちゃんの手作りさるまほ

いかがですか??

『ゆめ』の学生プロジェクト「ええじゃん栄村」では、さるまほの販売をしています。

このさるまほは、栄村の秋山郷のおばあちゃんが一つひとつ手作りで作っているお守りです。お守りには、家内安全・良縁・災いがさる...などの意味が込められています。これまでのさるまほの収益金は栄村に寄付されました。



さるまほ販売所

- * 松本大学地域づくり考房「ゆめ」
 - * 豚さん食堂
 - * エフエフショップアサワ
- ～編集委員が作る情報誌「Volere!!」を置いてくださっているお店に協力していただいています～
- * 辰野町ボランティアセンター

キッズトレイン運行!

参加者募集中!

上高地線イメージキャラクター
潤東なぎさ

アルピコ交通の協力を得て、上高地線
を走る“なぎさトレイン”の車内が小さな子
ども達の遊び場に変身!!

大学生と子育て中のお母さんたちが力
を合わせて企画・準備中です。



- 日 時: 9月7日(日) 9:45 ~ 11:00 ころ
(受付 9:15 ~ 9:45)
- 集合場所: 松本大学集合(駐車場あり)
- 対象者: 6歳以下の子どもの保護者
- 内容: 北新・松本大学前~松本駅~新島々駅の車内で、歌、ゲームなど
- 参加費: 大人1人1000円(乗車代、保険代含む) 子どもは無料
- 定員: 先着30組(100人程度)
- 申し込み: 9月1日までに地域づくり考房『ゆめ』へ

学生企画イベント

松本大学キッズスポーツスクール

3歳から6歳児を対象に、子ども達にからだを動かす楽しさを伝えスポーツを好きになるきっかけとして運動あそびを提供します。

- 8月 ● 内容: タオルで運動!
- 日 時: 8月23日(土) 10:30 ~ 12:00
- 場 所: 松本大学 第2体育館
- 9月 ● 内容: 体力測定 ~子どもの体力を知ろう~
- 日 時: 9月6日(土) 10:30 ~ 12:00
- 場 所: 松本大学 6号館

※申し込みは前日まで

松本大学こども広場

1歳から5歳児を対象に、親子・親同士のふれあいと交流の場として、こども広場を開催します。

- 内容: ミニ運動会
- 日 時: 10月4日(土) 10:00 ~ 11:30
- 場 所: 松本大学

※申し込みは開催日の1週間前まで

学生と地域との連携イベント

すすき川花火大会 2014

- 日 時: 8月10日(日) 19:30 ~ 20:45
(荒天の場合、翌日同時刻に順延)
 - 場 所: 松本市すすき川河川敷(筑摩橋~見晴橋)
- ※打上げ数: 3,800発
■ 詳細はP8をご覧ください

信濃大町食とアートの廻廊 2014

- 日 時: 8月9日(土) ~ 8月24日(日)
- 場 所: 信濃大町全域
- 内容: 地元の食材を使った料理を楽しみながら、美術作品を展示した市街地や郊外の森、湖を巡るツアー

第3回おてんとさんぽ(手しごと&産直市)

- 日 時: 9月27日(土) 10:00 ~ 16:00
28日(日) 10:00 ~ 15:00
- 場 所: 辰野町荒神山スポーツ公園
- 内容: 全国のクラフト作家の作品や地元の農産物を販売

つぶやき

入学してすぐに行われた「ゆめカフェ」で話を聞き、デザインすることが好きだった私は「自分も一緒に冊子を作りたい」と、ゆめ通信編集委員に入りました。

初めの頃は、パソコン操作も人と話すのも苦手でしたが、編集委員の先輩方や友達にアドバイスしていただき、徐々に克服し、今は取材・構成・レイアウトができるようになりました。新村の行事にも参加し、大学と地域との関わりについて知ることができ、とても勉強になりました。

そして様々な先輩や友達、先生や地域との輪が広がり、私の学生生活はとても充実したものになっています。

百瀬 香織 (松商短期大学部2年)

お問い合わせ、ご意見等は下記へご連絡ください。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

松本大学 7号館 2F

T E L : 0263-48-7213 (直通)

F A X : 0263-48-7216 (直通)

E-mail : community@matsu.ac.jp

U R L : http://www.matsu.ac.jp/matsumoto_u/yume/

※開館日時: 月~金 9:30 ~ 18:30